

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100198		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	グループホームめだかの学校・湯村		
所在地	甲府市 湯村 3-11-10		
自己評価作成日	H27年 9月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	平成29年11月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人ひかりの里は多様な施設サービスがあり、各事業所が連携してご利用様とご家族が、安心して笑顔で過ごせるように、できるかぎりの支援を展開してゆきます。また当事業所はひかりの里、各部所と連携し、一度お付き合いさせていただいたご利用様を最後まで支援していこうと努めております。今年の目標は「仕事を通じて成長しよう」「介護で人を幸せにしよう」です。

甲府市の市街に位置し、ホテルの建物を改装した事業所である。同じ建物の2階が特別養護老人ホーム、3階はグループホームと隣接してショートステイがある。1階の広いフロアで行われる特別な催しの折には、建物内の事業所との協力で合同で行い協力体制が取り易くなっている。事業所独自の理念「安心して笑顔で、一日一日を大切に過ごして頂く」を掲げ、利用者の尊厳・安心・社会性・職員意識をモットーに管理者・職員は日々取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 (グループホーム めだかの学校・湯村) [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心と笑顔、一日を大切に」という理念があり、朝礼後の報告で口に出して伝えるようにしております。	今年の目標と一緒に事業所独自の理念を掲げ、管理者は、2階の事業所と一緒に朝礼で唱和して確認し、グループホームの職員に報告している。朝礼の担当職員と一緒に”不愉快な思いをさせず、喜んでもらう”事を一番に考え日々努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	通りむかひの商店や、通行人は挨拶や、会釈するなどして、交流につとめております。	自治会には、2階の特別養護老人ホームが加入している。地域の夏祭りは事業所の駐車場が会場になっており、利用者も見ることが出来る。事業所内に神輿が収納してあるので夜間の準備の折にその様子を見ることを出来る。温泉街であり、事業所が3階のため日常的に戸外に出て地域と交流する機会が少ない。	事業の目的及び運営の方針に”安心して笑顔で一日一日を楽しく過ごしていただく”とあるように、事業所独自に建物の空いているスペースを地域に開放して利用者と接点を持つ工夫や運営推進会議を活かして民生委員などに声を掛けていただき、事業所自体が地域の一人として日常的に交流していく事に期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げてきた認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議では、実際の事例を話すなどして(個人情報除く)、認知症の理解や支援の方法を伝えるようにしております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、行事の報告、予定、防災訓練や、感染症対策などを話して、サービスの向上につとめております。	2か月に1回、特別養護老人ホームと一緒にしている。委員から地域の保育園との交流をしたらどうかとの意見があり、事業所内で行う予定である。議事録は、玄関に置いて誰でも見られるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	議事録の提出は、直接手渡しにゆき、顔の見えるおつきあいを、目指しております。	市の介護保険課経営係に運営推進会議録を届けたり、空部屋の利用についての相談をし、アドバイスを受ける等連携をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の開始以来、ミトンの使用以外に身体拘束は行っておりません。	管理者は、法人内の研修に年6回出席し、申し送りノートで職員と共有している。帰宅願望のある利用者には、職員が付き添って気持ちが落ち着く様に接している。また、スピーチロックについても職員同士で注意し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の甲府事業所、定期研修において虐待防止の研修を行っております。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一昨年前は研修を行っています。今年は処遇会議の一環として行う予定です。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をいただき、よく検討していただけるように努めております。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議のご家族代表の意見を、伺う、外部評価のアンケートを記入するなどにつとめております。	家族から「食事の量を多くして欲しい」との意見があり希望に添うように対応した。また、利用者から「訪問マッサージを受けたい」との意見があり、家族の同意を得て週2回訪問してもらう等サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の処遇会議で意見を聞き、話し合いにつとめております。	毎月行う処遇会議では、脳の刺激になるので歩行訓練を取り入れたらどうか、車椅子で移動の際、足で操作している利用者にハンドリングの使用を勧める等の意見が出された。職員は管理者に意見を言い易い関係にあり、意見を反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の甲府事業所会議の他、会議録などに目を通して、職場環境、条件の整備につとめております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定期研修、倫理法人会への参加などで、育成に取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターなどの研修への参加を許可し、サービスの質の向上に努めております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所、契約の際に懇切丁寧にお話を伺います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回、面談や契約、アセスメントの際に懇切丁寧にお話を伺っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	足腰を丈夫にして、転ばないようにとの願いを受け止め、外部の通所リハビリなどの検討も行います、		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事参加や、歳時のことなど、言葉を投げかけ、暮らしをともにする雰囲気作りを心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な事情のあるご家族様のニーズを受け止め、敬老会への参加など、共に支える雰囲気作りにつとめております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	解放的な事業所の雰囲気作りにつとめ、面会などの機会ができるようにつとめております。	教員をしていた利用者の教え子や知人が事業所を訪問している。「娘さんの家に行きたい」と言う利用者には、管理者が娘さんの家迄送迎し、希望に添うように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士の席を配慮するなど、言葉かけするなど、配慮に努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真データを送るなど、退所後のフォローもつとめております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出の希望もあり、週末に買い出しを行い、希望者は同行できるように展開を促しております。	入居時や家族が文化祭等で訪問した際、また、日常的な関わりの中で声掛けや表情から気持ちをくみ取り、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お話を傾聴し、仕事や生活歴を伺い、添うようにつとめております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者も現場の仕事に介入し、一人一人の過ごし方、心身の状態などの把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは会話コミュニケーションの中で、職員とは会議の中で、ご家族とは面会した際にお話しを伺い、現状に即した計画作りにつとめております。	介護計画は、入居時に本人・家族と面談し暫定プランを作成し、3か月で見直しをしている。毎月の処遇会議で利用者の状況を話し合い変化があればその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアノートに日々の記録を綴り、時おり確認して計画の参考にしております。		



自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応や、ご家族の自宅へ同行するなど、個別のニーズに対応できるようにつとめております。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	甲府の昔の事や現在を回想したり、塗り絵や、ちぎり絵作りなど本人の力が発揮できるものを探し、豊かな暮らしを楽しむようにつとめております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を希望されるご家族には、受診の際、生活の様子をお手紙に書いたり、バイタル表のコピーを持っておいただくなどの配慮につとめております。	入居前からのかかりつけ医を希望された方は、必要事項が記入してある手紙やバイタル表のコピーを持参し受診している。法人の協力機関医については管理者が対応をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回来る看護師が職員の相談を受けられるように、ゆとりを心がけております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	折ある事に地域の病院へ挨拶へ伺っております。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院などの可能性が出てきた場合、ご家族に入院の可能性と、対応などを相談させていただいております。	看取りについては家族に説明し、対応を伝えている。医療行為が必要になった場合は、職員とも話し合い、法人内の療養型病床等の選択肢を提案している。これまでに看取りの経験は無いが、家族の希望があれば最後まで関わって行きたいと思っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、赤十字職員の緊急時対応の研修を法人の内部研修として行っております。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練と、法人内部研修にて消火訓練を年一回行っております。	地域の消防署から水消火器を借りてきて、1階玄関で2階・3階の事業所と合同で水消火器の訓練を行っている。また、夜間想定を含めて年2回、火災・地震の避難訓練を2階の特養と合同で行っている。	グループホーム独自の避難訓練や夜間想定した非常階段を使つての避難方法を全職員が身に付け、また、避難場所の確認しておく等、地域住民の協力を得ながら訓練を実施する事を期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、あだ名で呼ばないように、「○○されますか？」等一方的な意見は控えるようにつとめております。	職員は、「自分にされて不愉快な事は利用者に対してしない」と言う思いで日々接している。このことは管理者をはじめ全職員が取り組んでいる。書類はロッカーに管理してあり個人情報の保護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「○○しますか?」「○○しましょう」など、自己決定を促す言葉かけにつとめております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	お風呂に入りませんか、集団体操へ行きませんか、など声かけで、本人の意志が引き出せるようにつとめております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際に「これにしましょう」等、自立意志が引き出せるようにつとめております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から回想を促したり、食後のお皿拭きを手伝ってもらったりしております。	2階の特別養護老人ホームの栄養士がメニューを作成している。副食は、特別養護老人ホームから届けられ、味噌汁・ご飯は事業所で作り盛り付けをしている。毎月セレクトメニューがあり利用者が好みの物を選ぶ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分ゼリーや、スポーツドリンクを個別に買う、ミルクティーを買うなどして工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、できない人には適宜介助するなど行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは自己負担となるため、できる範囲で節約する、しかしながら清潔に、自立できるようにつとめております。	排泄チェック表を基に声掛けをトイレへの誘導を行っている。日中自立の利用者・夜間オムツ使用・布パンツにパットとそれぞれ本人に併せて自立に向けての支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェック表にて確認。下剤の調整、水分やヨーグルト、腸の運動を促すように体操に努めるなど行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所内のユニットバスを利用し、気軽に入浴できるように工夫しております。	入浴は基本的に週2回である。担当職員が利用者の希望に合わせて支援している。ユニットバスのため、入浴困難な利用者には、1階の器械浴での入浴ができるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	座ったまま傾眠される利用者様には短時間でも臥床していただこうように工夫しております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて確認し、看護師ともいつでも相談できるように心がけております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や刺繍、ぬり絵など、個々の嗜好にあったサービス提供につとめております。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンビニが徒歩の距離にできたので、希望者は同行することが可能です。「一度、両国国技館へ行ってみよう」とのお話ありましたが、ご家族へさりげなく伝えております。	暖かい季節には戸外へ出かけている。帰宅願望のある利用者には、付き添って出かけたり、地域の夏まつりには、事業所の玄関で神輿を見る事ができ楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はおこずかいを事業所で管理しております。今後希望者があれば、可能な範囲で使用してもらおうと考えております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことはすすめますが、あまり書かれないことが多いです。はがきを塗り絵にしてみました。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの位置など、住みよい居住空間につとめております。	食堂兼共有ホールには、写真・習字や利用者と職員で作った紙細工などが飾ってある。ホールの一角にソファや木製のベッドが置いてあり、好きな時に一休み出来る空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い者同士が近くのテーブルへ座るなどの工夫につとめております。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの風が当たるので、ベッドの場所を工夫するなど行っております。	備え付けのベッド・エアコン以外は、自由に好きな物を持ち込める。壁には、家族と一緒に写真が飾られ、また、観葉植物が置いてあり自分らしい部屋作りが出来ている。また、窓からは、地域の馴染みの景観を見ることが出来、心地よく過ごせるようになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リハビリ(車イスの自走)が必要な方は距離のある部屋。トイレの近くの部屋など工夫しております。			